

(様式第3号)

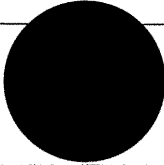



受付番号

1

「こくぶんじカレッジ協働事業」申込書

「こくぶんじカレッジ協働事業」へ下記のとおり申込みます。

団体の名称	(フガナ) トクテイヒエイリカツドウハウジン マルイス		
	特定非営利活動法人 マルイス		
所在地	〒187-0043 東京都小平市学園東町1-17-8		
	電話 042-312-1789 Eメール jimukyoku@mystyle-kodaira.net		
代表者氏名	代表理事 萩原修  (※) <small>(※) 本人が手書き(署名)しない場合は、記名し押印してください。 「申請書類等提出方法申出書」を提出している場合は、記名で構いません。 押印は不要です。</small>		
設立年月日	平成18年 11月		
会員の状況	正会員数 25人・0団体 (内国分寺市民 11人)	年会費	5,000円
	賛助会員数 0人 0団体	年会費	10,000円 20,000円
ホームページ	http://mystyle-kodaira.net/ (現在作成中: http://maruisu.net/)		
添付書類	<input checked="" type="checkbox"/> 事業企画書(様式第4号) <input checked="" type="checkbox"/> 過去の活動実績報告書 <input checked="" type="checkbox"/> 会則・定款・規約 <input checked="" type="checkbox"/> 令和6年度収支予算書 <input checked="" type="checkbox"/> 令和5年度収支決算書 <input checked="" type="checkbox"/> 法人市民税納税証明書 <input checked="" type="checkbox"/> その他(事業企画書別紙)		
担当者連絡先			

(様式第4号)

## 「こくぶんじカレッジ協働事業」 事業企画書

令和6年10月17日

団体名 特定非営利活動法人 マルイス

\* 次の事項について、具体的に記載してください。記載欄不足の場合は、任意の別紙に作成してもかまいません。

### 1 業務執行体制の状況

今回受託するスクール事業全体の企画には、当法人の代表理事の萩原、副代表理事の白石を、理事の木村、小林、会員の阿部、加藤（修）を中心に配し、委託者との定期的な協議を行います。

事業全体の企画運営業務には、萩原、白石、木村、小林と担当者2名に加え、加藤（健）、阿部、加藤（修）を配置します。木村は第1期カレッジ、白石は第2期カレッジ、小林は第3期カレッジ、阿部は第4期カレッジ、加藤（修）は第5期カレッジの修了者であり、修了者を中心とした運営体制となっており、受講生の立場を理解してフォローしていきます。

### 2 事業への意欲・熱意 応募の理由・抱負等について (応募した動機、この事業についての抱負や考え方など。)

2006年にNPO法人として設立されたマイスタイルでは「暮らすまちで、仕事をつくる」をテーマに、多摩エリアおよび周辺地域においてコミュニティビジネスの活性化に関わる、さまざまなプログラムを展開してきました。2023年10月に組織名称をマルイスに改め、ビジョンを「くらす・まち・うごく」として「じぶんたちの、くらすまちで、うごいてみる」ことを目指していくこととしました。従前のコミュニティビジネスという切り口だけでなく、自分たちの暮らす街で自分ごととして面白く、暮らしやすくする活動を対象としています。「こくぶんじカレッジ」が目的とするまちづくりの担い手となる人材づくりは、マルイスのビジョンそのものとなっています。

こくぶんじカレッジを2019年度から6年間にわたり協働事業者として受託させていただき、235名の修了生の中からマルイスの活動に参加した者も11名おり、2006年度以降培ってきた多摩地域における人材のネットワークと合わせ、マルイスの大きな力となっています。これからも熱意ある人材の発掘、修了者へのフォローに力を発揮できると考えています。

2025年度、2026年度につきましてもマルイスが継続してこくぶんじカレッジの協働事業者となることで、まちづくりの担い手育成の継続性が担保され、さらに充実したものとなると確信しています。

### 3 事業実施に関する理解力

こくぶんじカレッジを2019年度から6年間にわたり協働事業者として受託させていただいた経験が、マルイスの中にも根付いています。各年度の修了生を中心とした業務執行体制を築くことができました。今までのこくぶんじカレッジ事業の受託者としての立場と、受講生の立場を総合して事業を実施できる体制があります。

こくぶんじカレッジの目的に沿って、事業を理解し、最適な事業を実施できるものと考えています。

### 4 事業効果を高めるための創意工夫・独創性

マルイスの所在地は小平にあります。こくぶんじカレッジの修了生の参加も多かったことから、組織の活動も国分寺市内で行うことも増えてきました。マルイスの理事、会員の活動が、こくぶんじカレッジの修了生とのネットワークの充実に役立つものと思います。マルイスの活動の中で関わった市内のイベントに、修了生のプロジェクトが参加できるようコーディネートしています。また、活動発表・紹介の場として「BARくらすまち」というイベントをマルイスの事務所などで開催しています。

市民主体のまちづくり活動を実現していくためには、自ら活動している人材のネットワークが重要です。各年度の修了生がマルイスでの活動を行っており、そのことが修了生の把握や活動のフォローにも繋がっていくと考えています。マルイスの中にも既存の団体の構成員の方々もおり、既存団体とのネットワークも進めていきます。

### 5 団体構成員の能力育成

マルイスでは、個人の個性を大事にしながら、新しい技術の習得にも積極的に取り組んでいます。団体での活動でも、今までの経験の範囲を少し踏み出して新しい能力を身につけることを重視しています。

### 6 費用の妥当性

別紙、「公募型協働事業収支予算書のとおり」

(提案金額： 9,864,748 円)

### 7 個人情報保護の保護措置

法人としての個人情報保護方針を有しており、その重要性を認識しています。業務の受託にあたっては、関連する法令等を遵守し、業務での個人情報保護の徹底を図ります。

別紙

団体名 特定非営利活動法人 マルイス

## 令和7年度実施 公募型協働事業 収支予算書

(収入の部)

大項目	中項目	内訳	中項目計	大項目計
委託費		4,935,674 円	4,935,674 円	4,935,674 円
		円	円	円
		円		
合 計				4,935,674 円

(支出の部)

大項目	中項目	内訳	中項目計	大項目計
人件費	企画	講座企画・情報発信・活動拠点検討等 2,600 円× 5.0 H× 12 月× 2 人= 312,000 円 1,400 円× 5.0 H× 12 月× 7 人= 588,000 円 関係団体打合せ 2,600 円× 1.0 H× 3 回× 3 人= 23,400 円 講師打合せ 2,600 円× 1.0 H× 7 回× 1 人= 18,200 円	941,600 円	4,180,400 円
	講座運営	講座資料作成等 2,600 円× 15.0 H× 7 回× 1 人= 273,000 円 アンケート及び集計、議事録作成等 1,400 円× 15.0 H× 7 回× 2 人= 294,000 円	567,000 円	
	情報発信	デザイン全体監修等 2,600 円× 25.0 H× 1 人= 65,000 円 講座ロゴ・HPデザイン等 1,400 円× 120.0 H× 1 人= 168,000 円 配布物デザイン作成 2,600 円× 20.0 H× 3 回× 1 人= 156,000 円 HPコンテンツの検討 1,400 円× 12.0 H× 12 月× 1 人= 201,600 円 SNS記事作成・編集・更新 1,400 円× 2.5 H× 12 月× 2 人= 84,000 円 動画撮影・編集作成等 2,600 円× 9.0 H× 7 回× 1 人= 163,800 円 記録写真撮影及び加工・編集 2,600 円× 5.0 H× 7 回× 1 人= 91,000 円	929,400 円	
	委託者との打合せ会議	2,600 円× 3.0 H× 12 月× 3 人= 280,800 円 1,400 円× 3.0 H× 12 月× 7 人= 352,800 円	633,600 円	
	受講生フォロー	2,600 円× 3.0 H× 9 月× 3 人= 210,600 円 1,400 円× 3.0 H× 9 月× 7 人= 264,600 円	475,200 円	
	修了生フォロー	2,600 円× 3.0 H× 12 月× 3 人= 280,800 円 1,400 円× 3.0 H× 12 月× 7 人= 352,800 円	633,600 円	
報償費	講師謝礼	講師謝礼(大学教授・民間企業最高管理層) 13,700 円× 3.0 H× 3 人 = 123,300 円	179,300 円	179,300 円
	修了生謝礼	修了生活動紹介謝礼金 1,400 円× 2.0 H× 20 人 = 56,000 円		
外注費	HP制作・運営費	サイト構築、保守管理・セキュリティ対策等 10,000 円× 12 月 = 120,000 円	130,000 円	130,000 円
	HP運営費	ドメイン費・レンタルサーバー費 10,000 円× 一式 = 10,000 円		
印刷費	A4ちらし	受講生募集、発表会告知＋発表会詳細 10 円× 2,000 部× 3 回× 1.1 = 66,000 円	93,500 円	93,500 円
	A1ポスター	受講生募集 500 円× 50 部× 1 回× 1.1 = 27,500 円		
消耗品費	資料印刷用紙	連続講座資料等 1 円× 120 枚× 7 回× 1.1 = 924 円	93,474 円	93,474 円
	付箋紙	連続講座7回分 100 円× 10 束× 7 回× 1.1 = 7,700 円		
	ボールペン	連続講座7回分、発表会用 100 円× 5 袋 × 1.1 = 550 円		
	ポスターパネル	発表会・展示会用 2,000 円× 10 個 × 1.1 = 22,000 円		
	ポスター展示用消耗品	発表会・展示会 3,000 円× 1 回 × 1.1 = 3,300 円		
	会場費	説明会・講座 10,000 円× 2 回 × 1.1 = 22,000 円		
	会場備品利用料	説明会・講座 10,000 円× 2 回 × 1.1 = 22,000 円		
	広告費	受講生募集、発表会告知 15,000 円× 一式 = 15,000 円		
保険料	行事保険	45,000 円× 一式 = 45,000 円	90,000 円	90,000 円
	個人情報漏えい賠償保険	45,000 円× 一式 = 45,000 円		
直接経費計				4,766,674 円
諸経費	報告書作成業務、会計事務等人件費 1,400 円× 100 H = 140,000 円 報告書作成業務、会計事務等交通費等 2,000 円× 12 月 = 24,000 円 振込手数料 5,000 円× 一式 = 5,000 円		169,000 円	169,000 円
合 計				4,935,674 円



## 令和8年度実施 公募型協働事業 収支予算書

## (収入の部)

大項目	中項目	内訳	中項目計	大項目計
委託費		4,929,074 円	4,929,074 円	4,929,074 円
		円	円	円
		円		
合 計				4,929,074 円

## (支出の部)

大項目	中項目	内訳	中項目計	大項目計
人件費	企画	講座企画・情報発信・活動拠点検討等 2,600 円 × 5.0 H × 12 月 × 2 人 = 312,000 円 1,400 円 × 5.0 H × 12 月 × 7 人 = 588,000 円 関係団体打合せ 2,600 円 × 1.0 H × 3 回 × 3 人 = 23,400 円 講師打合せ 2,600 円 × 1.0 H × 7 回 × 1 人 = 18,200 円	941,600 円	4,180,400 円
	講座運営	講座資料作成等 2,600 円 × 15.0 H × 7 回 × 1 人 = 273,000 円 アンケート及び集計、議事録作成等 1,400 円 × 15.0 H × 7 回 × 2 人 = 294,000 円	567,000 円	
	情報発信	デザイン全体監修等 2,600 円 × 25.0 H × 1 人 = 65,000 円 講座ロゴ・HPデザイン等 1,400 円 × 120.0 H × 1 人 = 168,000 円 配布物デザイン作成 2,600 円 × 20.0 H × 3 回 × 1 人 = 156,000 円 HPコンテンツの検討 1,400 円 × 12.0 H × 12 月 × 1 人 = 201,600 円 SNS記事作成・編集・更新 1,400 円 × 2.5 H × 12 月 × 2 人 = 84,000 円 動画撮影・編集作成等 2,600 円 × 9.0 H × 7 回 × 1 人 = 163,800 円 記録写真撮影及び加工・編集 2,600 円 × 5.0 H × 7 回 × 1 人 = 91,000 円	929,400 円	
	委託者との打合せ会議	2,600 円 × 3.0 H × 12 月 × 3 人 = 280,800 円 1,400 円 × 3.0 H × 12 月 × 7 人 = 352,800 円	633,600 円	
	受講生フォロー	2,600 円 × 3.0 H × 9 月 × 3 人 = 210,600 円 1,400 円 × 3.0 H × 9 月 × 7 人 = 264,600 円	475,200 円	
	修了生フォロー	2,600 円 × 3.0 H × 12 月 × 3 人 = 280,800 円 1,400 円 × 3.0 H × 12 月 × 7 人 = 352,800 円	633,600 円	
報償費	講師謝礼	講師謝礼(大学教授・民間企業最高管理層) 13,700 円 × 3.0 H × 3 人 = 123,300 円	179,300 円	179,300 円
	修了生謝礼	修了生活動紹介謝礼金 1,400 円 × 2.0 H × 20 人 = 56,000 円		
外注費	HP制作・運営費	サイト構築、保守管理・セキュリティ対策等 10,000 円 × 12 月 = 120,000 円	127,000 円	127,000 円
	HP運営費	レンタルサーバー費 7,000 円 × 一式 = 7,000 円		
印刷費	A4ちらし	受講生募集、発表会告知 + 発表会詳細 10 円 × 2,000 部 × 3 回 × 1.1 = 66,000 円	93,500 円	93,500 円
	A1ポスター	受講生募集 500 円 × 50 部 × 1 回 × 1.1 = 27,500 円		
消耗品費	資料印刷用紙	連続講座資料等 1.0 円 × 120 枚 × 7 回 × 1.1 = 924 円	75,874 円	75,874 円
	付箋紙	連続講座7回分 100 円 × 10 束 × 7 回 × 1.1 = 7,700 円		
	ボールペン	連続講座7回分、発表会用 100 円 × 5 袋 × 1.1 = 550 円		
	ポスターパネル	発表会・展示会用 2,000 円 × 2 個 × 1.1 = 4,400 円		
	ポスター展示用消耗品	発表会・展示会 3,000 円 × 1 回 × 1.1 = 3,300 円		
	会場費	説明会・講座 10,000 円 × 2 回 × 1.1 = 22,000 円		
	会場備品利用料	説明会・講座 10,000 円 × 2 回 × 1.1 = 22,000 円		
	広告費	受講生募集、発表会告知 15,000 円 × 一式 = 15,000 円		
保険料	行事保険	45,000 円 × 一式 = 45,000 円	90,000 円	90,000 円
	個人情報漏えい賠償保険	45,000 円 × 一式 = 45,000 円		
直接経費計				4,746,074 円
諸経費		報告書作成業務、会計事務等人件費 1,400 円 × 110 H = 154,000 円 報告書作成業務、会計事務等交通費等 2,000 円 × 12 月 = 24,000 円 振込手数料 5,000 円 × 一式 = 5,000 円	183,000 円	183,000 円
合 計				4,929,074 円

# 直近5年分の活動実績報告書

特定非営利活動法人 マルイス

## 平成31年度

## 事業報告書

特定非営利活動法人 MYstyle アット

### 1 事業の成果

#### ① 事業の成果

② 設立13年目を迎えた平成31年度のマイスタイルは、少し歩みを緩めて、内省をしながら、あらためて組織名にもなっている「自分らしさ」とは何かを考える1年になりました。

そうした中で、新たな事務局メンバーとしてマイスタイルに加わった2名のスタッフは、指示待ちではなく、主体的に事業に関わる姿勢でこの1年を歩んできました。

その結果、リーダーシップを発揮する力ある事務局として、活躍したことは、喜ばしい前進となりました。

また事業としては、主として以下の3つの協働事業を中心に活動しました。

1つ目は国分寺市との協働事業「こくぶんじカレッジ」です。

こくぶんじカレッジでは、目標とした人数の参加が得られ、アンケート結果からも、参加者が今後もまちづくり活動を進める意向であること、そのための仲間を見つけることができたと評価しているなど、一定の成果を得ることができました。

講座修了後も、6グループがそれぞれ活動を継続しているほか、個人で活動を活発化した参加者もあり、市民の能力、意欲を引き出し、街での活動を生み出すことは成功したと考えます。

マイスタイルがこれまで取組んできた「市民による自律的な地域活動支援」の経験を、プログラムや講師選定に反映できたと同時に、マイスタイルがこれまで力を入れてきた「当事者として主体的に行動する市民マインド」をこくぶんじカレッジ参加者にも醸成することができました。

2つ目は東京都と連携して「地域創業アドバイザー」として取り組んだ「女性若者シニア創業サポート事業」です。

まだ事業内容が固まらない段階の個別相談から、融資に向けた事業計画評価面談、起業後のハンズオン支援に加えて、連続5回の創業講座を4クール実施するなど、コミュニティビジネスの中間支援組織として充実したプログラムを提供しました。

また、本事業については、事務局業務が複雑ですが、それらを一手に任せられる事務局の成長があったことも大きな収穫と考えます。

3つ目はパルシステム東京からの委託事業「人材バンク」です。マイスタイルの設立と同時に受託した事業は13年を超えました。コミュニケーション力、プロジェクト推進力など総合的な力が問われる事業ですが、昨年度は代表の竹内の手を離れ、事務局2名が全面的に担当し、よりよい仕組みづくりに尽力しました。

また、上記以外には、拠点である小平以外に、三鷹市、立川市、国分寺市など多摩地域の各地で、連携ができ、他にも大学からの依頼も増えているなど、基盤を整える年になりました。

## 2 事業の実施に関する事項

特定非営利活動に係る事業

(事業費の総費用【9,494】千円)

定款に記載 された 事業名	事業内容	実施 日時	実施 場所	従事者 の人数	受益対象者 の範囲及び 人数	事業費の 金額 (千円)
起業・経営支 援事業	東京都「女性・若者・シニア 創業サポート事業」地域創 業アドバイザー 相談業務・セミナー開催	4月～3月	多摩エリア会 場、法人事務 所他	2名	起業に際して 融資を希望す る女性・若者・ シニア	1,075
	立川市コミュニティビジネ ス支援事業	2月	立川市女性総 合センターア イム	2名	立川市および その周辺地域 で市民活動を 行っている市 民	72
	立川市創業入門講座	コロナのため 中止	立川市中央図 書館	1名	立川市および その周辺地域 で起業に関心 を持つ市民	121
	こだいら創業塾	11月 ～12月	小平市中央公 民館	1名	小平市および その周辺地域 で起業に関心	27
	たましん創業キックオフセ ミナー	12月	小平市中央公 民館	1名	多摩地域の起 業に関心を持 つ不特定多数	5
	三鷹起業講座	9月	三鷹ネットワ ーク大学	1名	三鷹市および 周辺地域の不 特定多数。	25
教育事業	こくぶんじカレッジ	4月～3月	東京経済大学 キャンパス	2名	国分寺市およ びその周辺地 域のまちづく りに関心のあ る市民	4,731

	こだいらクエスト	9月～3月	小平市中央公民館	2名	小平市およびその周辺地域のまちづくりに関心のある市民	215
	矢祭町関係人口創出事業	7月～12月	UDX CONFERENCE	1名	首都圏在住の「矢祭もっていないプロジェクト」に関心をもつ人	334
	自分デザイン学	2月	自由大学	1名	ライフイベントと「働く」が重なる時にどんな決定をすればよいか考えたい人	4
人材・資源等 マッチング事業	パルシステム東京 人材バンク事務局事業	4月～3月	法人事務所	5名	パルシステム東京組合員不特定多数。	2860
	交流会	5月～6月	法人事務所	2名	小平市および周辺地域のCBに関心を持つ不特定多数。	25
	多摩CBネットワーク 世話人	4月～3月	多摩地域	1名	多摩地域のCBに関心を持つ不特定多数。	—
	広域関東圏CB推進協議会 幹事	4月～3月	広域関東圏 (1都10県)	1名	広域関東圏のCBに関心を持つ不特定多数。	—
地域情報発信 事業	学園坂商店街HP運営	4月～3月	法人事務所	1名	学園坂商店街店舗経営者および近隣消費者	0



令和2年度

事業報告書

特定非営利活動法人 MYstyle アット

1 事業の成果

設立15年目を迎えた令和2年度のマイスタイルは、東京都と連携しコミュニティビジネスの中間支援組織として創業支援事業に力点を置くと同時に、国分寺市との協働事業として人材育成事業に取り組みました。

一方、立ち上げ時から長く持続していた事業に区切りをつけ、事業の原点に立ち戻り新旧事業が入れ替わる一年でした。そうした中で、事務局スタッフは、それぞれ主体的に事業に関わりリーダーシップを発揮して活躍したことは、喜ばしい前進となりました。

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

(事業費の総費用【8,649】千円)

定款に記載された事業名	事業内容	日時	場所	従事者人数	受益対象者範囲	受益対象者人数	事業費(千円)
起業・経営支援事業	東京都「女性・若者・シニア創業サポート事業」地域創業アドバイザー相談業務・セミナー開催	4月～3月	多摩エリア会場、法人事務所他	2名	起業に際して融資を希望する女性・若者・シニア	約40名	820千円
起業・経営支援事業	こだいら創業塾	11月～12月	小平市中央公民館	1名	小平市およびその周辺地域で起業に関心を持つ市民	約20名	43千円
教育事業	こくぶんじカレッジ	4月～3月	リオンホール	2名	国分寺の街作りに関心のある市民	約50名	4,803千円
教育事業	北陸大学	2月	オンライン講座	1名	北陸大学学生	約600名	11千円

教育事業	東京しごと財団	3月	東京しごと財団セミナールーム	1名	東京に暮らす求職中の方	約30名	24千円
人材・資源等 マッチング事業	パルシステム東京 人材バンク事務局事業	4月～3月	法人事務所	2名	パルシステム東京組合員	約100名	2,931千円
人材・資源等 マッチング事業	多摩CBネットワーク 世話人	4月～3月	多摩地域	1名	多摩地域のCBに関心を持つ不特定多数。	多数名	0千円
人材・資源等 マッチング事業	広域関東圏CB推進協議会 幹事	4月～3月	広域関東圏（1都10県）	1名	広域関東圏のCBに関心を持つ不特定多数。	多数名	0千円

（2）その他の事業

（事業費の総費用【 0 】千円）

定款に記載された 事業名	事業内容	日時	場所	従事者 人数	事業費 (千円)
なし	なし				

令和3年度

事業報告書

特定非営利活動法人 MYstyle アット

1 事業の成果

令和3年度、マイスタイルは、東京都と連携して、コミュニティビジネスの中間支援組織の創業支援事業を行い、また、国分寺市との協同事業として、地域コミュニティの人材育成事業に取り組みました。

組織としては、理事・会員・事務局が、SNSを活用して、密に連絡を取り合い、情報交換・意見交換を行うことにより、仕事の分担と協力が進みました。

世界的に令和3年度は、新型コロナウイルスの影響が長引き、生活や経済へも様々な制約が続きました。そんな中、マイスタイルでも、リモートでの講座や、ソーシャルディスタンスを考慮したイベントなど、「with コロナ」時代の運営が定着しました。

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業 (事業費の総費用【8,551】千円)

定款に記載された事業名	事業内容	日時	場所	従事者人数	受益対象者範囲	受益対象者人数	事業費(千円)
起業・経営支援事業	東京都「女性・若者・シニア創業サポート事業」地域創業アドバイザー相談業務・セミナー開催	4月～3月	法人事務所他	3名	起業に際して融資を希望する女性・若者・シニア	約20名	1472
起業・経営支援事業	立川市コミュニティビジネス支援事業	2月中止				—	69
教育事業	こくぶんじカレッジ	4月～3月	リオンホール等	4名	国分寺の街作りに関心のある市民	約30名	6545
教育事業	ご近所クエスト(こだいらプチ田舎会議)	11月27日	小平市内各地、および学園東町地域センター	3名	小平のまち歩きに感心のある人	約30名	452



人材・資源等 マッチング事業	(パルシステム東京 人材バンク事業)					—	13
人材・資源等 マッチング事業	多摩 CB ネットワーク 世話人	4月～ 3月	多摩地域	1名	多摩地域の CB に 関心を持つ不特定 多数。	多数名	—
人材・資源等 マッチング事業	広域関東圏 CB 推進協議会 幹事	4月～ 3月	広域関東 圏（1都 10県）	1名	広域関東 圏の CB に関心を持つ不特 定多数。	多数名	—

(2) その他の事業

(事業費の総費用【 0 】千円)

定款に記載 された 事業名	事業内容	日時	場所	従事者 人数	事業費 (千円)
なし	なし				

令和4年度

事業報告書

特定非営利活動法人 MYstyle アット

1 事業の成果

令和4年度のマイスタイルは、東京都と連携して、コミュニティビジネスの中間支援組織の創業支援事業を行い、また、国分寺市との協同事業として、地域コミュニティの人材育成事業に取り組みました。

組織としては、令和4年8月に代表理事が交代しました。これを契機に、組織として目的や事業内容などを再検討することとし、会員・事務局が、情報交換・意見交換を重ねてきました。

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

(事業費の総費用【5,628】千円)

事業名	事業内容	日時	場所	従事者 人数	受益対象者 範囲	人数	事業 費
起業・ 経営支 援事業	東京都「女性・若者・シ ニア創業サポート事業」 地域創業アドバイザー 相談業務・セミナー開催	4月～3 月	ハタラボ 他	4名	起業に際して融資 を希望する女性・ 若者・シニア	34 名	1,533
教育事 業	こくぶんじカレッジ	4月～3 月	リオンホー ル 他	4名	国分寺の街作りに 関心のある市民	35 名	3,994
教育事 業	路上観察クエスト@こ だいら	2月	小平市中央 公民館 他	4名	小平のまち歩きに 関心のある人	10 名	73
人材・資 源等マ ッチン	暮らすまち企画会議	10月 ～3月	小平市中央 公民館 他	4名	「暮らすまち」を どうしたいのかに 関心のある人	延べ 10 名	17
地域情 報発信 事業	学園坂商店街HP運 営	4月～ 3月	法人事務所	1名	学園坂商店街店舗 経営者および近隣 消費者	—	11

(2) その他の事業

(事業費の総費用【0】千円)

定款に記載 された 事業名	事業内容	日時	場所	従事者 人数	事業費 (千円)
なし	なし				

## 令和5年度

## 事業報告書

特定非営利活動法人 マルイス

## 1 事業の成果

令和5年度のマルイスは、国分寺市との協働事業として、地域コミュニティの人材育成事業に取り組みました。

組織としては、名称変更の手続きを行うとともに、ビジョンを「くらす・まち・うごく、じぶんたちのくらすまちで うごいてみる」と定めるとともに、ロゴ、HPの改修などに取り組みました。年度後半は、BAR くらすまちを毎月開催し、フラットな関係で、ゆるやかなテーマをもとに、交流を進めてきました。

## 2 事業の実施に関する事項

## (1) 特定非営利活動に係る事業

(事業費の総費用【5,190】千円)

定款に記載された事業名	事業内容	日時	場所	従事者人数	受益対象者範囲	受益対象者人数	事業費(千円)
まちの使い方を創造する事業	こくぶんじカレッジ	4月～3月	リオンホール 他	5名	国分寺の街作りに関心のある市民	40名	5,153
まちの関係人口を増進する事業	BAR くらすまち	8月～3月	マルチ@学園坂	4名	「暮らすまち」をどうしたいのかに関心のある人	延べ100名	29
まちの生産と循環を向上する事業	学園坂商店会 HP 運営	4月～3月	法人事務所	1名	学園坂商店街店舗経営者および近隣消費者	—	8

## (2) その他の事業

(事業費の総費用【0】千円)

定款に記載された事業名	事業内容	日時	場所	従事者人数	事業費(千円)
なし	なし				

# 特定非営利活動法人マルイス 定款

## 第1章 総 則

### (名称)

第1条 この法人は、特定非営利活動法人マルイスと称する。

### (事務所)

第2条 この法人は、主たる事務所を東京都小平市に置く。

### (目的)

第3条 この法人は、東京都北多摩エリアおよびその周辺の個人を対象として、地域資源の調査・発掘、地域活動の推進・支援、地域連携の開拓・拡充、地域情報の収集・発信など地域の仕組みづくりを推進することにより、地域で活動する人を増やし、住みやすい、働きやすい、学びやすい、遊びやすいまちにすることを目的とする。

### (特定非営利活動の種類)

第4条 この法人は、前条の目的を達成するため、次の種類の特定非営利活動を行う。

- (1) 社会教育の推進を図る活動
- (2) まちづくりの推進を図る活動
- (3) 観光の振興を図る活動
- (4) 経済活動の活性化を図る活動
- (5) 職業能力の開発又は雇用機会の拡充を支援する活動
- (6) 以上の活動を行う団体の運営又は活動に関する連絡、助言又は援助の活動

### (事業の種類)

第5条 この法人は、第3条の目的を達成するために、次の特定非営利活動に係わる事業を行う。

- (1) まちを知る機会を提供する事業
- (2) まちの使い方を創造する事業
- (3) まちの関係人口を増進する事業
- (4) まちの生産と循環を向上する事業
- (5) まちの新しい働き方を支援する事業
- (6) その他目的を達成するために必要な事業

## 第2章 会 員

### (会員の種別)

第6条 この法人の会員は、次の2種とし、正会員をもって特定非営利活動促進法（以下「法」という。）上の社員とする。

- (1) 正会員 この法人の目的に賛同して入会した個人及び団体
- (2) 賛助会員 この法人の目的に賛同し賛助するために入会した個人及び団体



#### (入会)

第7条 会員の入会について、特に条件は定めない。

2 会員として入会しようとするものは、代表理事が別に定める入会申込書により、代表理事に申し込むものとする。

3 代表理事は、前項の申し込みがあったとき、正当な理由がない限り、入会を認めなければならない。

4 代表理事は、第2項のものの入会を認めないときは、速やかに、理由を付した書面をもって本人にその旨を通知しなければならない。

#### (会費)

第8条 会員は、理事会において別に定める入会金及び会費を納入しなければならない。

#### (会員の資格の喪失)

第9条 会員が次の各号の一に該当する場合には、その資格を喪失する。

(1) 退会届の提出をしたとき。

(2) 本人が死亡し、若しくは失踪宣告を受け、又は会員である団体が消滅したとき。

(3) 継続して2年以上会費を滞納し、滞納通知書の送付後も会費の支払いがないとき。

(4) 除名されたとき。

#### (退会)

第10条 会員は、代表理事が別に定める退会届を代表理事に提出し、任意に退会することができる。

#### (除名)

第11条 会員が次の各号の一に該当する場合には、総会の議決により、これを除名することができる。

(1) この定款に違反したとき。

(2) この法人の名誉を傷つけ、又は目的に反する行為をしたとき。

2 前項の規定により会員を除名しようとする場合は、議決の前に当該会員に弁明の機会を与えなければならない。

#### (抛出金品の不返還)

第12条 既に納入した入会金、会費その他の抛出金品は、返還しない。

## 第3章 役員

#### (種別及び定数)

第13条 この法人に、次の役員を置く。

(1) 理事 3名以上7人以内

(2) 監事 1名以上2名以内

2 理事のうち1名を代表理事とし、1名を副代表理事とする。

#### (選任等)

第14条 理事及び監事は、総会において選任する。

- 2 代表理事、副代表理事は、理事の互選とする。
- 3 役員のうちには、それぞれの役員について、その配偶者若しくは三親等以内の親族が1人を超えて含まれ、又は当該役員並びにその配偶者及び三親等以内の親族が役員の総数の3分の1を超えて含まれることになってはならない。
- 4 法第20条各号のいずれかに該当する者は、この法人の役員になることができない。
- 5 監事は、理事又はこの法人の職員を兼ねてはならない。

#### (職務)

第15条 代表理事は、この法人を代表し、その業務を総理する。

2 副代表理事は、代表理事を補佐し、代表理事に事故があるとき又は代表理事が欠けたときは、その職務を代行する。

3 理事は、理事会を構成し、この定款の定め及び総会又は理事会の議決に基づき、この法人の業務を執行する。

4 監事は、次に掲げる職務を行う。

(1) 理事の業務執行の状況を監査すること。

(2) この法人の財産の状況を監査すること。

(3) 前2号の規定による監査の結果、この法人の業務又は財産に関し不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実があることを発見した場合には、これを総会又は所轄庁に報告すること。

(4) 前号の報告をするために必要がある場合には、総会を招集すること。

(5) 理事の業務執行の状況又はこの法人の財産の状況について、理事に意見を述べること。

#### (任期等)

第16条 役員の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

2 補欠のため、又は増員により就任した役員の任期は、それぞれの前任者又は現任者の任期の残存期間とする。

3 役員は、辞任又は任期満了後においても、後任者が就任するまでは、その職務を行わなければならない。

#### (欠員補充)

第17条 理事又は監事のうち、その定数の3分の1を超える者が欠けたときは、遅滞なくこれを補充しなければならない。

#### (解 任)

第18条 役員が次の各号の一に該当する場合には、総会の議決により、これを解任することが出来る。

(1) 心身の故障のため、職務の遂行に堪えないと認められるとき。

(2) 職務上の義務違反その他役員としてふさわしくない行為があったとき。

2 前項の規定により役員を解任しようとする場合は、議決の前に当該役員に弁明の機会を与えなければならない。

#### (報酬等)

第19条 役員は、その総数の3分の1以下の範囲内で報酬を受けることができる。

- 2 役員には、その職務を執行するために要した費用を弁償することができる。
- 3 前2項に関し必要な事項は、理事会の議決を経て、代表理事が別に定める。

## 第4章 会 議

### (種別)

第20条 この法人の会議は、総会及び理事会の2種とする。

- 2 総会は、通常総会及び臨時総会とする。

### (総会の構成)

第21条 総会は、正会員をもって構成する。

### (総会の権能)

第22条 総会は、次の事項を議決する。

- (1) 定款の変更
- (2) 解散及び合併
- (3) 事業報告及び収支決算
- (4) 会員の除名
- (5) 役員の選任又は解任、職務及び報酬
- (6) 解散における残余財産の帰属
- (7) その他運営に関する重要事項

### (総会の開催)

第23条 通常総会は、毎年1回開催する。

- 2 臨時総会は、次に掲げる場合に開催する。

- (1) 理事会が必要と認め、招集の請求をしたとき。
- (2) 正会員総数の5分の1以上から会議の目的を記載した書面により招集の請求があったとき。
- (3) 監事が第15条第4項第4号に基づいて招集するとき。

### (総会の招集)

第24条 総会は、前条第2項第3号の場合を除いて、代表理事が招集する。

- 2 代表理事は、前条第2項第1号及び第2号の規定による請求があったときは、その日から30日以内に臨時総会を招集しなければならない。

- 3 総会を招集するときには、会議の日時、場所、目的及び審議事項を記載した書面又は電子メールにより、開催の日の少なくとも5日前までに通知しなければならない。

### (総会の議長)

第25条 総会の議長は、その総会に出席した正会員の中から選出する。

### (総会の定足数)

第26条 総会は、正会員総数の2分の1以上の出席がなければ開会することはできない。

### (総会の議決)

第27条 総会における議決事項は、第24条第3項の規定によってあらかじめ通知した事



項とする。但し議事が緊急を要するもので、出席した社員の2分の1以上の同意があった場合は、この限りではない。

2 総会の議事は、この定款に規定するもののほか、出席した正会員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

#### (総会の表決権等)

第28条 正会員の表決権は平等なものとする。

2 やむを得ない理由により総会に出席できない正会員は、あらかじめ通知された事項について、書面若しくは電磁的方法をもって表決し、又は他の正会員を代理人として表決を委任することができる。

3 前項の規定により表決権を行使した正会員は、前2条及び次条第1項の適用については、総会に出席したものとみなす。

4 総会の議決について、特別の利害関係を有する正会員は、その議事の議決に加わることができない。

#### (総会の議事録)

第29条 総会の議事については、次の事項を記載した議事録を作成しなければならない。

(1) 日時及び場所

(2) 正会員総数及び出席者数(書面若しくは電磁的方法による表決者又は表決委任者がある場合にあっては、その数を付記すること。)

(3) 審議事項

(4) 議事の経過の概要及び議決の結果

(5) 議事録署名人の選任に関する事項

2 議事録には、議長及び総会において選任された議事録署名人2名が、記名押印又は署名しなければならない。

#### (理事会の構成)

第30条 理事会は、理事をもって構成する。

#### (理事会の権能)

第31条 理事会は、この定款に別に定める事項の他、次の事項を議決する。

(1) 総会に付議すべき事項

(2) 総会の議決した事項の執行に関する事項

(3) その他総会の議決を要しない業務の執行に関する事項

#### (理事会の開催)

第32条 理事会は、次に掲げる場合に開催する。

(1) 代表理事が必要と認めたとき。

(2) 理事総数の2分の1以上から理事会の目的である事項を記載した書面により招集の請求があったとき。

#### (理事会の招集)

第33条 理事会は、代表理事が招集する。

2 代表理事は、前条第2号の規定による請求があったときは、その日から14日以内に理



事を招集しなければならない。

3 理事会を招集するときは、会議の日時、場所、目的及び審議事項を記載した書面又は電子メールにより、開催の日の少なくとも5日前までに通知しなければならない。

#### (理事会の議長)

第34条 理事会の議長は、代表理事がこれにあたる。

#### (理事会の議決)

第35条 理事会における議決事項は、第33条第3項の規定によってあらかじめ通知した事項とする。

2 理事会の議事は、理事総数の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

#### (理事会の表決権等)

第36条 各理事の表決権は、平等なものとする。

2 やむを得ない理由のため理事会に出席できない理事は、あらかじめ通知された事項について書面をもって表決することができる。

3 前項の規定により表決した理事は、前条及び次条第1項の適用については、理事会に出席したものとみなす。

4 理事会の議決について、特別の利害関係を有する理事は、その議事の議決に加わることはできない。

#### (理事会の議事録)

第37条 理事会の議事については、次の事項を記載した理事会の議事録を作成し、これを保存しなくてはならない。

(1) 日時及び場所

(2) 理事総数、出席者及び出席者氏名（書面表決者にあつては、その旨を付記すること。）

(3) 審議事項

(4) 議事の経過の概要及び議決の結果

(5) 議事録署名人の選任に関する事項

2 議事録には、議長及びその会議において選任された議事録署名人2名が、記名押印又は署名しなければならない。

## 第5章 資産

#### (資産の構成)

第38条 この法人の資産は、次の各号に掲げるものをもって構成する。

(1) 設立当初の財産目録に記載された資産

(2) 入会金及び会費

(3) 寄付金品

(4) 財産から生じる収入

(5) 事業に伴う収入

(6) その他の収入

**(資産の区分)**

第39条 この法人の資産は、特定非営利活動に係る事業に関する資産の1種とする。

**(資産の管理)**

第40条 この法人の資産は代表理事が管理し、その方法は、理事会の議決を経て、代表理事が別に定める。

## **第6章 会計**

**(会計の原則)**

第41条 この法人の会計は、法第27条各号に掲げる原則に従っておこなわなければならない。

**(会計の区分)**

第42条 この法人の会計は、特定非営利活動に係る事業会計の1種とする。

**(事業年度)**

第43条 この法人の事業年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

**(事業計画及び予算)**

第44条 この法人の事業計画及びこれに伴う収支予算に関する書類は、毎事業年度ごとに代表理事が作成し、理事会の議決を経なければならない

**(暫定予算)**

第45条 前条の規定にかかわらず、やむを得ない理由により予算が成立しないときは、代表理事は、理事会の議決を経て、予算成立の日まで前事業年度の予算に準じ収入支出することができる。

2 前項の収入支出は、新たに成立した予算の収入支出とみなす。

**(予備費)**

第46条 予算超過又は予算外の支出に充てるため、予算中に予備費を設けることができる。

2 予備費を使用するときは、理事会の議決を経なければならない。

**(予算の追加及び更正)**

第47条 予算成立後にやむを得ない事由が生じたときは、理事会の議決を経て、既定予算の追加又は更正をすることができる。

**(事業報告及び決算)**

第48条 この法人の事業報告書、財産目録、貸借対照表及び収支計算書等決算に関する書類は、毎事業年度終了後、速やかに、代表理事が作成し、監事の監査を受け、総会の議決を経なければならない。

2 決算上剰余金を生じたときは、次事業年度に繰り越すものとする。

**(臨機の措置)**

第49条 予算をもって定めるもののほか、借入金の借入れその他新たな義務の負担をし、又は権利の放棄をしようとするときは、理事会の議決を経なければならない。

## **第7章 定款の変更、解散及び合併**

**(定款の変更)**

第50条 この法人が定款を変更しようとするときは、総会に出席した正会員の4分の3以上の多数による議決を経、かつ、法第25条第3項に規定する軽微な事項を除いて所轄庁の認証を得なければならない。

**(解散)**

第51条 この法人は、次に掲げる事由により解散する。

- (1) 総会の議決
- (2) 目的とする特定非営利活動に係る事業の成功の不能
- (3) 正会員の欠亡
- (4) 合併
- (5) 破産手続き開始の決定
- (6) 所轄庁による設立の認証の取消し

2 前項第1号の事由によりこの法人が解散するときは、正会員総数の4分の3以上の承諾を得なければならない。

3 第1項第2号の事由により解散するときは、所轄庁の認定を得なければならない。

**(残余財産の帰属先)**

第52条 この法人が解散（合併又は破産手続き開始の決定による解散を除く。）したときに残存する財産は、法第11条第3項に掲げる者のうち、この法人と同種の目的を有する、特定非営利活動法人、社団法人又は財団法人に譲渡するものとする。

**(合併)**

第53条 この法人が合併しようとするときは、総会において正会員総数の4分の3以上の議決を経、かつ、所轄庁の認証を得なければならない。

## **第8章 公告の方法**

**(公告の方法)**

第54条 この法人の公告は、官報及びこの法人の事務所の掲示場とウェブサイト上で行う。ただし、法第28条の2第1項に規定する貸借対照表の公告については、内閣府NPO法人ポータルサイト（法人入力情報欄）に掲載して行う。

## **第9章 事務局**

**(事務局の設置)**

第55条 この法人に、この法人の事務を処理するため、事務局を設置する。



2 事務局には、事務局長 1 名及び必要な職員を置く。

(職員の任免)

第 5 6 条 事務局長及び職員の任免は、代表理事が行う。

(組織及び運営)

第 5 7 条 事務局の組織及び運営に関し必要な事項は、理事会の議決を経て代表理事が別に定める。

## 第10章 雑 則

(細則)

第 5 8 条 この定款の施行について必要な細則は、理事会の議決を経て、理事長がこれを定める。

附則

1 この定款は、この法人の成立の日から施行する。

2 この法人の設立当初の役員は、次のとおりとする。

代表理事	竹 内 千 寿 恵
副代表理事	篠 原 麻 里
理 事	馬 場 悦 子
監 事	野 村 貴 子

3 この法人の設立当初の役員の任期は、第 1 6 条第 1 項の規定にかかわらず、この法人の成立の日から平成 1 9 年 5 月 3 1 日までとする。

4 この法人の設立当初の事業年度は、第 4 3 条の規定にかかわらず、この法人の成立の日から平成 1 9 年 3 月 3 1 日までとする。

5 この法人の設立当初の事業計画及び収支予算は、第 4 4 条の規定にかかわらず、設立総会の定めるところによる。

6 この法人の設立当初の入会金及び会費は、第 8 条の規定にかかわらず、次に掲げる額とする。

- |         |                         |
|---------|-------------------------|
| (1) 入会金 | 正会員（個人・団体）1,000円        |
|         | 賛助会員（個人・団体）1,000円       |
| (2) 年会費 | 正会員（個人）5,000円           |
|         | 正会員（団体）10,000円          |
|         | 賛助会員（個人）一口10,000円（一口以上） |
|         | 賛助会員（団体）一口20,000円（一口以上） |

附則

この定款は、令和5年7月6日から施行する。

マルイス 2023令和5年度決算・2024令和6年度予算

	2024 令和6年度 予算	2023 令和5年度 決算	2023 令和5年度 予算	対予算比	2022 令和4年度 決算	対前年比
正会員受取会費	200,000	91,000	100,000	91.0%	71,000	128.2%
受取寄附金	100,000	30,925			0	
起業経営支援事業収入					2,237,740	0.0%
まちの使い方創造事業 教育事業収入	4,618,578	4,631,674	4,631,674	100.0%	4,568,835	101.4%
まちの関係人口を増進する事業 人材資源マッチ事業			147,000	0.0%	0	
まちの生産と循環を向上する事業 情報提供事業		8,486	7,944	106.8%	7,944	106.8%
事業収益	4,618,578	4,640,160	4,786,618	96.9%	6,814,519	68.1%
受取利息	100	92	82	112.2%	82	112.2%
雑収入		11,050			6,551	168.7%
受取協力金					100,000	0.0%
受取支援金		60,000			1,000,000	6.0%
その他収益	100	71,142	82	86,758.5%	1,106,633	6.4%
経常収益計	4,918,678	4,833,227	4,886,700	98.9%	7,992,152	60.5%
給与手当(事業)	990,000	970,128	2,500,000	38.8%	1,395,936	69.5%
給与手当(管理)	90,000	107,792	300,000	35.9%	155,104	69.5%
給料手当計	1,080,000	1,077,920	2,800,000	38.5%	1,551,040	69.5%
法定福利費(事業)		3,262			65,287	5.0%
法定福利費(管理)		362			7,254	5.0%
法定福利費計	0	3,624	0		72,541	5.0%
福利厚生費(事業)	18,000	18,878			32,131	58.8%
福利厚生費(管理)	2,000	2,098	26,000	8.1%	3,570	58.8%
福利厚生費計	20,000	20,976	26,000	80.7%	35,701	58.8%
人件費計	1,100,000	1,102,520	2,826,000	39.0%	1,659,282	66.4%
外注費(事業)	2,500,000	2,667,660	130,000	2,052.0%	2,563,000	104.1%
外注費(管理)					0	
外注費計	2,500,000	2,667,660	130,000	2,052.0%	2,563,000	104.1%
通信費(事業)	220,000	236,703			309,545	76.5%
通信費(管理)	22,000	24,481	300,000	8.2%	31,178	78.5%
通信費計	242,000	261,184	300,000	87.1%	340,723	76.7%
旅費交通費:事業	1,500	1,430			2,950	48.5%
水道光熱費(事業)	70,000	68,010			81,287	83.7%
水道光熱費(管理)	7,000	7,557	100,000	7.6%	9,032	83.7%
水道光熱費計	77,000	75,567	100,000	75.6%	90,319	83.7%
広告宣伝費:事業	700,000	0			12,365	0.0%
会議費	10,000	10,000			15,776	63.4%
消耗品費(事業)	8,000	7,113	50,543	14.1%	11,091	64.1%
消耗品費(管理)	800	326	8,000	4.1%	301	108.3%
消耗品費計	8,800	7,439	58,543	12.7%	11,392	65.3%
事務用品費(事業)	8,000	7,560			6,237	121.2%
事務用品費(管理)	800	840			341	246.3%
事務用品費計	8,800	8,400	0		6,578	127.7%
諸会費(事業)	47,700	47,700			47,700	100.0%
諸会費(管理)	5,300	5,300	53,000	10.0%	5,300	100.0%
諸会費計	53,000	53,000	53,000	100.0%	53,000	100.0%
印刷費:事業	50,000	49,179	137,500	35.8%	46,005	106.9%
地代家賃(事業)	702,000	702,000			702,000	100.0%
地代家賃(管理)	78,000	78,000	780,000	10.0%	78,000	100.0%
地代家賃計	780,000	780,000	780,000	100.0%	780,000	100.0%
保険料(事業)	97,000	96,803	60,000	161.3%	102,872	94.1%
保険料(管理)	1,600	1,552	16,000	9.7%	1,552	100.0%
保険料計	98,600	98,355	76,000	129.4%	104,424	94.2%
租税公課(事業)	4,000	3,780			3,220	117.4%
租税公課(管理)	400	420	3,000	14.0%	330	127.3%
租税公課計	4,400	4,200	3,000	140.0%	3,550	118.3%
支払手数料(事業)	20,000	19,082			133,906	14.3%



	2024 令和6年度 予算	2023 令和5年度 決算	2023 令和5年度 予算	対予算比	2022 令和4年度 決算	対前年比
支払手数料 (管理)	2,000	1,705	130,000	1.3%	14,645	11.6%
支払手数料計	22,000	20,787	130,000	16.0%	148,551	14.0%
支払報酬(事業)	97,020	97,020			97,172	99.8%
支払報酬(管理)	10,780	10,780			10,628	101.4%
支払報酬計	107,800	107,800	0		107,800	100.0%
支払利息：管理					109	0.0%
雑損失 報償費		184,066	269,700	68.2%		
その他経費計	4,663,900	4,329,067	2,037,743	212.4%	4,286,542	101.0%
事業費計	5,543,220	5,190,374	3,147,743	164.9%	5,628,480	92.2%
管理費計	220,680	241,213	1,716,000	14.1%	317,344	76.0%
経常費用計	5,763,900	5,431,587	4,863,743	111.7%	5,945,824	91.4%
当期経常増減額	-845,222	-598,360	22,957	赤字化	2,046,328	赤字化
法人税、住民税、及び事業税	70,000	70,012			76,711	91.3%
当期正味財産増減額	-915,222	-668,372	22,957	赤字化	1,969,617	赤字化
前期繰越正味財産額	6,471,954	7,140,326	7,140,326	100.0%	5,170,709	138.1%
次期繰越正味財産額	5,556,732	6,471,954	7,163,283	90.3%	7,140,326	90.6%

# 決 算 報 告 書

(第 18 期)

自 2023年 4月 1日

至 2024年 3月31日

特定非営利活動法人マルイス

令和5年度 貸借対照表  
令和6年3月31日現在

特定非営利活動法人マルイス  
(単位：円)

科目	金額		
I 資産の部			
1 流動資産			
現金預金	6,397,526		
貯蔵品	11,883		
未収入金	8,486		
流動資産合計		6,417,895	
2 固定資産			
(1) 有形固定資産			
建物付属設備	1		
有形固定資産計	1		
(2) 投資その他の資産			
敷金	130,000		
投資その他の資産計	130,000		
固定資産合計		130,001	
資産合計			6,547,896
II 負債の部			
1 流動負債			
短期借入金			
未払費用	5,942		
未払法人税等	70,000		
流動負債合計		75,942	
2 固定負債			
長期借入金			
固定負債合計		0	
負債合計			75,942
III 正味財産の部			
前期繰越正味財産		7,140,326	
当期正味財産増減額		-668,372	
正味財産合計			6,471,954
負債及び正味財産合計			6,547,896



財 産 目 録  
令和6年3月31日現在

特定非営利活動法人マルイス  
(単位：円)

科目	金額		
I 資産の部			
1. 流動資産			
普通預金			
多摩信用金庫	2,149,682		
楽天第一営業	4,247,844		
貯蔵品	11,883		
未収入金			
学園坂商店会	8,486		
流動資産合計		6,417,895	
2. 固定資産			
(1) 有形固定資産			
建物附属設備	1		
有形固定資産計	1		
(2) 無形固定資産			
無形固定資産計	0		
(3) 投資その他の資産			
敷金	130,000		
投資その他の資産計	130,000		
固定資産合計		130,001	
資産合計			6,547,896
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払費用	5,942		
未払法人税等	70,000		
流動負債合計		75,942	
2. 固定負債			
固定負債合計		0	
負債合計			75,942
III 正味財産の部			
前期繰越正味財産		7,140,326	
当期正味財産増減額		-668,372	
正味財産合計			6,471,954
負債及び正味財産合計			6,547,896

令和5年度 活動計算書  
令和5年4月1日から令和6年3月31日まで

特定非営利活動法人マルイス  
(単位：円)

科目	金額		
I 経常収益			
1. 受取会費			
正会員受取会費	91,000	91,000	
2. 受取寄附金			
受取寄附金	30,925	30,925	
3. 事業収益			
まちを知る機会を提供する事業	4,631,674		
まちの使い方を創造する事業	0		
まちの関係人口を増進する事業	0		
まちの生産と循環を向上する事業	8,486		
まちの新しい働き方を支援する事業	0	4,640,160	
4. その他収益			
受取利息	92		
雑収入	11,050		
受取協力金	0		
受取支援金	60,000	71,142	
経常収益計			4,833,227
II 経常費用			
1. 事業費			
(1) 人件費			
給料手当	970,128		
法定福利費	3,262		
福利厚生費	18,878		
人件費計	992,268		
(2) その他経費			
外注費	2,667,660		
通信費	236,703		
旅費交通費	1,430		
水道光熱費	68,010		
広告宣伝費			
会議費	10,000		
消耗品費	7,113		
事務用品費	7,560		
諸会費	47,700		
印刷費	49,179		
地代家賃	702,000		
保険料	96,803		
租税公課	3,780		
支払手数料	19,082		
支払報酬料	97,020		
雑損失	184,066		
その他経費計	4,198,106		
事業費計		5,190,374	
2. 管理費			
(1) 人件費			
給料手当	107,792		
法定福利費	362		
福利厚生費	2,098		
人件費計	110,252		
(2) その他経費			
通信費	24,481		
水道光熱費	7,557		
消耗品費	326		
事務用品費	840		
諸会費	5,300		
地代家賃	78,000		
保険料	1,552		
租税公課	420		
支払手数料	1,705		
支払報酬料	10,780		
支払利息			
その他経費計	130,961		
管理費計		241,213	
経常費用計			5,431,587
当期経常増減額			-598,360
税引前当期正味財産増減額			-598,360
法人税、住民税及び事業税			70,012
当期正味財産増減額			-668,372
前期繰越正味財産額			7,140,326
次期繰越正味財産額			6,471,954

## 計算書類の注記

1. 重要な会計方針  
 計算書類の作成は、NPO法人会計基準（2010年7月20日 2011年11月20日一部改正 NPO法人会計基準協議会）によっています。

- (1) 固定資産の減価償却の方法  
 法人税法に規定する定率法で償却しています。
- (2) 消費税等の会計処理  
 消費税等の会計処理は、税込方式によっています。

### 2. 事業別損益の状況

							(単位：円)
科目	まちを知る機会を提供する事業	まちの使い方を創造する事業	まちの関係人口を増進する事業	まちの生産と循環を向上する事業	まちの新しい働き方を支援する事業	管理部門	合計
I 経常収益							
1. 受取会費	0	0	0	0	0	91,000	91,000
2. 受取寄附金	0	0	0	0	0	30,925	30,925
3. 事業収益	4,631,674	0	0	8,486	0	0	4,640,160
4. その他収益	0	0	0	0	0	71,142	71,142
経常収益計	4,631,674	0	0	8,486	0	193,067	4,833,227
II 経常費用							
(1) 人件費							
給料手当	970,128	0	0	0	0	107,792	1,077,920
法定福利費	3,262	0	0	0	0	362	3,624
福利厚生費	18,878	0	0	0	0	2,098	20,976
人件費計	992,268	0	0	0	0	110,252	1,102,520
(2) その他経費							
交流会費用	0	0	0	0	0	0	0
外注費(事業)	2,667,660	0	0	0	0	0	2,667,660
外注費(管理)	0	0	0	0	0	0	0
通信費(事業)	228,217	0	0	8,486	0	0	236,703
通信費(管理)	0	0	0	0	0	24,481	24,481
荷造運賃	0	0	0	0	0	0	0
水道光熱費	68,010	0	0	0	0	7,557	75,567
旅費交通費(事業)	1,430	0	0	0	0	0	1,430
旅費交通費(管)	0	0	0	0	0	0	0
広告宣伝費	0	0	0	0	0	0	0
会議費	10,000	0	0	0	0	0	10,000
消耗品費	7,113	0	0	0	0	326	7,439
事務用品費	7,560	0	0	0	0	840	8,400
諸会費	47,700	0	0	0	0	5,300	53,000
新聞図書費	0	0	0	0	0	0	0
印刷費	49,179	0	0	0	0	0	49,179
地代家賃	673,151	0	28,849	0	0	78,000	780,000
保険料(事業)	96,803	0	0	0	0	1,552	98,355
保険料(管理)	0	0	0	0	0	0	0
租税公課(事業)	0	0	0	0	0	0	0
租税公課(管理)	3,780	0	0	0	0	420	4,200
支払手数料(事業)	19,082	0	0	0	0	1,705	20,787
支払手数料(管)	0	0	0	0	0	0	0
支払報酬料	97,020	0	0	0	0	10,780	107,800
支払利息	0	0	0	0	0	0	0
雑損失	184,066	0	0	0	0	0	184,066
その他経費計	4,160,771	0	28,849	8,486	0	130,961	4,329,067
経常費用計	5,153,039	0	28,849	8,486	0	241,213	5,431,587
当期経常増減額	▲ 521,365	0	▲ 28,849	0	0	▲ 48,146	▲ 598,360

### 3. 固定資産の増減内訳

(単位：円)

科目	期首取得価額	取得	減少	期末取得価額	減価償却累計	期末帳簿価
有形固定資産						
建物附属設備	452,295	0	0	452,295	▲ 452,294	1
合計	452,295	0	0	452,295	▲ 452,294	1

### 4. 借入金の増減内訳

				(単位:円)
科目	期首残高	当期借入	当期返済	期末残高
短期借入金	0	0	0	0
長期借入金	0	0	0	0
合計	0	0	0	0

収益事業の損益計算書

自 令和5年 4月 1日  
至 令和6年 3月31日

特定非営利活動法人マルイス  
(単位:円)

科 目				金 額	
[経常収支の部]					
【経常収支】					
事 業 収 入				4,640,160	
雑 収 入				71,050	
受 取 利 息 収 入				92	
経常収支 計					4,711,302
【事業費】					
給 料 手 当				970,128	
法 定 福 利 費				3,262	
福 利 厚 生 費				18,878	
外 注 信 費				2,667,660	
通 信 交 通 費				236,703	
旅 費 交 通 費				1,430	
水 道 光 熱 費				68,010	
広 告 宣 伝 費				0	
会 議 費				10,000	
消 耗 品 費				7,113	
事 務 用 品 費				7,560	
諸 会 費				47,700	
印 刷 費				49,179	
地 代 家 賃				702,000	
保 險 料				96,803	
租 税 公 課				3,780	
支 払 手 数 料				19,082	
支 払 報 酬 料				97,020	
雑 損 失				184,066	
当期事業費 計				5,190,374	
合 計				5,190,374	
事業費計					5,190,374
【管理費】					
給 与 手 当				105,073	
法 定 福 利 費				353	
福 利 厚 生 費				2,045	
通 信 信 費				23,863	
水 道 光 熱 費				7,366	
消 耗 品 費				318	
事 務 用 品 費				819	
諸 会 費				5,166	
地 代 家 賃				76,032	
保 險 料				1,513	
租 税 公 課				409	
支 払 手 数 料				1,662	
支 払 報 酬 料				10,508	
管理費計					235,128
営業利益金額					-714,200
営業外費用					0
税引前当期純利益					-714,200
法人税、住民税及び事業税					70,012
当期純利益額					-784,212



## 萩原 修

プロジェクトデザイナー。

国分寺市の西のはずれ、国立駅周辺で育つ。国立市にある桐朋小中高卒、小平市にある武蔵野美術大学でデザインを学ぶ。20年間の都心でのサラリーマン生活を42歳で卒業し地元に戻って、西町の実家の「つくし文具店」を継ぐ、南町にシェアオフィス「国分寺さんち」を立ち上げ、地域を面白くする活動を継続中。明星大学デザイン学部教授。NPOマイスタイル代表理事。



## 加藤 健介

お隣・国立市をホームに、合同会社三画舎として、求人サイト「国立人」の運営、国立市発行「国立新書」の編集・デザイン、国立市主催「クラブサバーク」の企画運営など、人がまちに目を向けるきっかけづくりをしています。最近ではアートプロジェクトを運営する「ACKT」のディレクターや、別会社を仲間と設立し、みんなと一緒に作るコンビニ「みんなのコンビニ」を始めるなど、新たな取り組みも始めました。



## 木村 寛

1期生

京都市生まれ京都市そだち。関前→高円寺→ロンドン→京都→用賀→武蔵境をへて、国分寺在住7年目。デザイン会社を退職し、現在フリーランスのグラフィックデザイナー .....ですが、WiFiをとばしたり、雪のなか船にのったりなんでもしています。フォントにちょっとくわしい、国際タイポグラフィ協会所属。趣味は畑の動画撮影と、田植え(福島で相馬田んぼアートというイベントをやってます)。うす底くつ愛好。



## 白石 真二

2期生

西元町在住。結婚を機に、妻の実家があった国分寺に住み始めました。仕事は旭化成工業(現旭化成)入社後、住宅領域を中心に営業やマーケティング、ブランディング、事業開発等に携わってきました。一方、国分寺には知人・友人がおらず、地域貢献もできていませんでしたが、コロナ禍の2020年、こくぶんじカレッジに入学。2期生7名と「こくぶんじツナガル大学」(こくツナ大学)を2021年4月に立上げ「国分寺とヒト・トキ・コトでつながる場を提供する」というビジョンを掲げ、活動を続けています。国分寺で「友達100人できるかな♪」が密かな目標です。



## 小林 麻梨菜

3期生

国分寺にて姉弟で建築設計事務所をしています。山形で銀行や廃校をコミュニティスペースに改修するPJを通じて地元の方の溢れるばかりの地元愛を感じ、私も暮らすまちをもっと楽しみたいと思い、こくカレ3期に参加。「こくぶんじかん編集室」を立ち上げ、国分寺の魅力的なヒト・コト・バを紹介するマップ「こくぶんじかん」の編集担当として活動中。「国分寺路上観察学会」も定期的に開催しています。恋ヶ窪の公園前にみんなの居場所となる空間を設計中です。遊びに来てください。



## 阿部 恭子

4期生

小学生から国分寺に住み、国分寺市民歴30年以上。こくカレ4期生。コロナ禍で国分寺で過ごす時間が長くなったことを機に、国分寺でフィールドワークをしたいと思い、こくカレに参加。現在は取材ライターや司会を行う傍ら、こくカレ参加中に生まれたプロジェクト『堆肥des SDGs (現:まちのタイヒ)』の継続や、こくカレスタッフ、ボランティアガイドとして国分寺で活動中。



## 加藤 修平

5期生

デザイン・ディレクター／デザイン思考コーチ。持続可能性とデザインをテーマに、日本とアフリカ地域での開発に関わる、さまざまな社会課題の解決のためのデザインの実践を行っています。日本国内では、伝統工芸やものづくりに関わる企業のデザイン支援などを行っています。明星大学デザイン学部非常勤講師。こくカレ第5期参加者。

6期生も  
参画予定!

この別紙では、当法人が、国分寺市の皆様と協働で「こくぶんじカレッジ（こくカレ）」を進めるための前提として考えている、これからの「まちづくり」で重要なことや、6年に渡る連続講座の進行イメージ、直近に取り組んでいるアクションについてお示しいたします。

下記の内容を基本に、現在進行中の6期スクール（連続講座）と並行しながら、国分寺市の皆様とこれからのこくカレの内容を調整する時間を持たせていただき、より良い企画にすべく精査していきたい次第です。

## 1 | 連続講座「こくカレ」の考え方

連続講座「こくカレ」は、以下のような考えのもと運営しています。

### ▷ まちづくりを自分ごとに

国分寺市は現状、緩やかに人口増加を続けている一方、将来的には人口減少に転じると言われています。人口減少・超高齢社会が到来し、社会環境が目まぐるしく変化していく中、市職員による対応のみでは限界が目に見えており、市民の能動的な地域まちづくりへの参画が求められている。そのような考えのもと、これまで「こくカレ」の運営を国分寺市と協働で進めてまいりました。

国分寺市まちづくり条例（第85条）が目的としていた「市民が主役となるまちづくり」を実現するためには、市民一人ひとりの「住む街をこういう街にしたい」という想いが都市計画に先行するという発想が重要です。市民一人ひとりの活動がまずあって、その活動が公有財産の活用や都市計画手法の活用でさらに加速化できるという可能性があるという順で考えていくべきです。

本スクール（連続講座）では、まちを良くしたいという市民の思いをどのように引き出し、実践のできる人材を生み出していけるかという観点から、「まちが“自分ごと”になる」をキーワードに、6年間で計235人の人材育成を進めてきました。

コロナ禍を経て、地域に関わりたいという想いを持つ人の参加が増えました。すでに活躍する修了生との連携も視野に入れながら、イベントの実施や、お店の開店など、一層多くの市民をまちづくりに引き入れていきます。

### ▷ 学びから実践まで一気通貫で実施するスクール

全7回のカリキュラムを通じて、国分寺のまちを知り、やりたいことを考え、チームをつくって実践する、一気通貫でまちづくりのノウハウを学べるスクールを進めていきます。

6年間を経て「こくカレ」のカリキュラムやサポート体制も成熟しています。受講生がまちを知り、活動の方向性を考え、チームをつくり、実践するまでのプロセスもスムーズになったことで、「こくカレ」期間中にお試しのイベントを実施するチームや、修了後、積極的に活動を展開するチームが増えてきました。

これを受け、6期では市内の市民イベント「ぶんぶんウォーク」をカリキュラムに組み込みました。受講生全員がまちへと出て、作り上げたアイデアを実践する機会を作っています。受講生は、この実践から活動づくりの実際を経験し、市民の方から直接の反応を感じます。そしてこの経験は、まちづくりを“自分ごと”へと変えていきます。

また現在、1期・2期・3期・4期・5期からそれぞれ1名が運営スタッフとして参画し、企画、デザイン、進行、ワークショップ開催など、参加者の視点も持ち合わせながら、主要な場面での運営に従事して

います。「こくカレ」自体を実践の場にするなど、国分寺市内で活動したいと思っている人たちが、自ら仲間づくり、つながり作り、次世代の担い手育成に携わるサイクルが実現しています。

## ▷ 間口をひろくするサポート体制

国分寺のまちに想いを持つすべての方が参加し、実践的な学びを得て、その後の活動につなげていくための、間口のひろいスクールであることが必要です。

受講生の動機はさまざまですが、これを確実に実際の活動につなげていくこと。そしてカリキュラムの修了後にも継続していただくこと。このために受講生おひとりおひとりに個別面談をおこない、その想いを理解します。コロナ禍でのオンライン開講時の不自由さを補完するためにはじまった取り組みですが、いまではこくカレに欠かせない要素になりました。

また、講座期間中に編成されるプロジェクトグループには、それぞれメンターを設定し、講座の外でもサポートできる体制をとっています。メンターは受講生たちの適宜、議論を観察し、内外の人材を紹介し、打ち合わせに参加し、情報提供をおこないます。

全7回のカリキュラムはどうしても欠席しなくてはならないケースも出てきます。授業風景を録画し、欠席した方に共有し、欠席後もできるだけスムーズにグループ参加ができるよう配慮しています。

## 2 | こくカレの先につながる環境をつくる取り組み

「こくカレ」は、「まちが自分ごとになる」をテーマに、現在開講中の6期時点で計235名が参加しており、これまでに50のプロジェクトが生まれてきました。地域に関わるきっかけを得たい人、新しいことをはじめたい人、地域に仲間を増やしたい人など、多様な動機・背景を持つ受講者が集っています。こくカレで生まれた企画をそのまま発展させる人もいれば、ここでの気づきをきっかけに新しい活動を始める人など、その後の展開も様々です。

6年間を経て「こくカレ」の目指したものがすこしずつ現実になり、蓄積されてきました。精力的に活動続ける修了生へのサポートの必要性や、新旧受講生の交流機会の創出、既存団体との連携など、こくカレの外での支援を目指したアクションに取り組んでいます。以下は具体例です。

## ▷ 人材ネットワークを厚くする機会づくり

人の出会いが、あたらしい可能性を生み出します。こくカレのカリキュラムがグループワークを中心としているのもこのためです。6期をむかえたこくカレには、修了生たちの活動の蓄積もできてきました。そこで、活躍する修了生に声がけをし、受講生たちを前に活動紹介をしてもらおう機会をつくっています。成功点や苦労など先輩の知見が共有されるだけでなく、受講生にとってまちでの活動が“自分ごと”になっていきます。さらにももちろん、これは受講生と修了生の交流の機会にもなっています。

修了生にはさらにさまざまな人とつながる機会を提供し、人材ネットワークを厚くしています。マルイスでは、地域で活躍する方が想いを発表する場づくりをしています。すでに1期～5期までの修了生がマルイスに参加しており、成果発表をしています。この活動が、マルイスによる修了生のその後の把握やフォローにもつながっています。もちろん、他団体等とのつながりも必要です。マルイスには他団体所属の方も参加しており、マルイスを結節点としたネットワークを活発にしています。

このような取り組みが、すでに実際にひろがりを生み出しています。こくカレ修了後に別グループ、別年次のプロジェクトに参加するケースはもちろん、修了後の交流からあらたなプロジェクトも誕生しています。





こくカレ内で先輩の活動を紹介



マルイスの「BARくらすまち」で活動の共有も



修了生の交流から生まれたプロジェクト、路上観察学会

## 実践・参加機会の充実

修了生に対しても、参加機会を増やしています。2023年5月には国分寺駅北口広場で「まちつかい交流会」と題したイベントを開催。こくカレ発プロジェクトを、市内で最も人流の高い場所で紹介することができました。また、2024年10月には市内大規模集合住宅内のイベントにコーディネート、こくカレ発プロジェクトをくらしの場に届けることができました。他にも新たな機会づくりの検討をすすめています



国分寺駅北口広場での出店



ザ・パークハウスのイベントに参加

## 情報発信の拡張・充実

これまでの「こくカレ」では、デザイナーやコピーライター、動画製作者等と協業し、「まちが自分ごとになる」人に伝わる情報発信を心がけ、募集時や発表会時にはフライヤー、ポスターなど従来の情報発信に加え、SNS等を活用した多角的な展開を心がけてきました。また、公式ウェブサイトにはプロジェクトやイベント紹介の機能を追加し、取り組みを伝える環境を整えました。

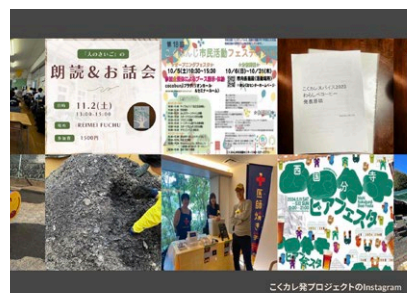
修了生やプロジェクトが増えてきたことから、受講生の取り組みに加え、修了生による現在進行形の取り組みなど、「こくカレ」の全体像が伝わる情報発信を一層充実させています。また、公式ウェブサイトは修了生によるイベント告知などの発信にも対応しています。5期からはこくカレ発プロジェクトのSNSを紹介する機能も運用開始。より円滑で深い情報発信の機会を増やし、「こくカレ」と地域の双方向の情報共有を増やしていきます。



こくカレ公式ウェブサイト



Facebook、Instagram、Xも活用し、多角的な情報発信をしている



公式ウェブサイトのSNS連携機能



国分寺市における課題に対し、これからを担う当事者として実際に動ける人材を募り、国分寺を知り、考え、想いを形にする連続講座を実施します。

特定のテーマを設定せず、講座のなかで子育て・教育・コミュニティ・商店街・商品企画・地産地消・観光・景観など、さまざまな切り口のテーマを参加者自身に見つけてもらい、国分寺のまちを“自分ごと”にするプロジェクトを、チームを作ってグループワークで企画していきます。

NPO法人マルイスによる講座の運営に加え、まちづくりの各分野で経験豊富なスタッフ（マルイスのスタッフ及び外部のサポートメンバー）が各チームのメンターとして、企画の円滑な具体化を目指すために伴走します。

各チームの成果の発表会である「こくぶんじスパイス」を集大成の機会として開催し、国分寺市民や団体、まちづくりに関心のある方等に広く伝え、つながりを生み出します。第6期では「ぶんぶんウォーク」の機会を活用し、実際にまちへ出てアイデアを実践することにしました。

プロジェクトを具体化し展開していく上で必要となる“インタビュー”や、“カスタマージャーニーマップ”の手法によるプロジェクトブラッシュアップなどのスキルを学ぶ機会も提供し、実践につなげます。

ゲスト講師として、全国的にまちづくり分野で活躍する方、国分寺市で実践されている方などをお呼びし、活動のアイデアやヒントを積極的に提供しています。また、すでに活動している修了生にもゲスト講師として経験を紹介してもらい、受講生が地域で活動するイメージの解像度をあげる機会とします。

#### ▷ 市民の想いを形にしていくカリキュラム

##### 1回目 オリエンテーション

■ **自己紹介** 参加者それぞれの参加した動機を知る

■ **講演1 まちで活動する楽しさを知る** 全国レベルで活躍する実践者の話題提供

▷ 宿題（グループワーク）：国分寺のまちをフィールドワークする



6期は36名が参加。30秒自己紹介の時間を通じて参加者それぞれの想いを共有しました



6期の講演は小杉湯の加藤優一さん。  
《小杉湯に学ぶ、場と人のつながり方》をテーマに事例紹介

■1～2 回の際に、Zoom を使って受講生全員に個人面談を実施、それぞれの想いや背景を確認します。

## 2 回目 まちを知る・人とつながる

■宿題（フィールドワーク）の発表

■講演 2 まちで活動する先輩を招き、経験を聞きます。

■座学 インタビューのポイント

▷宿題（個人ワーク）：こくぶんじカレッジでやりたいことを考える



第1回の宿題（フィールドワーク）発表。  
8グループがそれぞれの選んだテーマで  
まちを探索します



ぶんじドリンク、井戸端会議シネマ、  
東山道ブンカノミチ、まちのタイヒのみなさんに、  
活動を紹介してもらいました

## 3 回目 チームをつくる・テーマを決める

■1分やりたいこと紹介 現時点で自分自身がやりたいことを全体に紹介

■チームづくり マグネットテーブルによる、興味関心の近い人同士のチームづくり

▷宿題（グループワーク）：チームで取り組むプロジェクトを考える



ここまで学んだことや交流を通じ、  
この時点でのやりたいことを  
1分間にこめて紹介



マグネットテーブルを通じ、  
興味・関心の近い人同士で  
集まってチームを作りました

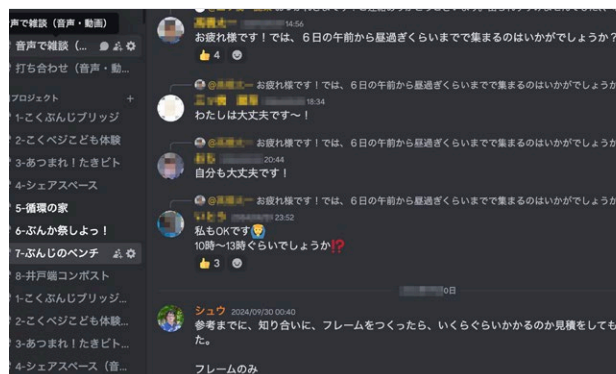


6期は、仲間づくりにふさわしい  
場所として、カフェスローで開催

- チームづくり以降は、各チームが個別に集まり、企画を検討
- スタッフがメンターとして担当チームをサポート



各チームが取り組むプロジェクトを進める為  
講座以外の時間で個別に集まり、適宜企画検討を行う



2チーム2メンターの体制で、細かなやりとりも

#### 4回目 中間発表／プロジェクトを深化させる

- **中間発表** 各チームのプロジェクトの現在地を発表する
  - **グループワーク** 意見交換を基にプロジェクトの内容を深める
- ▷ 宿題（グループワーク）：関係者以外の3名以上にプロジェクトを説明する



チームとして集まったメンバーで知恵を絞りながら  
こくカレで実現したいことを全体に向けて中間発表



まちで活躍する、奥田大介さん、出口みちたかさんから  
具体的なアドバイスをもらいます。

#### 5回目 発表に向けてプロジェクトを取りまとめる

- **グループワーク** プロジェクトの取りまとめを行う
  - **ワークショップ「カスタマージャーニーマップづくり」**
- ▷ 宿題（グループワーク）：発表資料を作成する



■プロジェクト発表「ぶんぶんウォーク」に参加し、まちでプロジェクトを実践する



「こくぶんじスパイス」という名称の発表会を開催  
国分寺のまちに混じりプロジェクトを実践します。



こくカレで考え抜いてきたプロジェクトを形にします。



まちの人たちの反応も、  
次のプロジェクトにつながります。



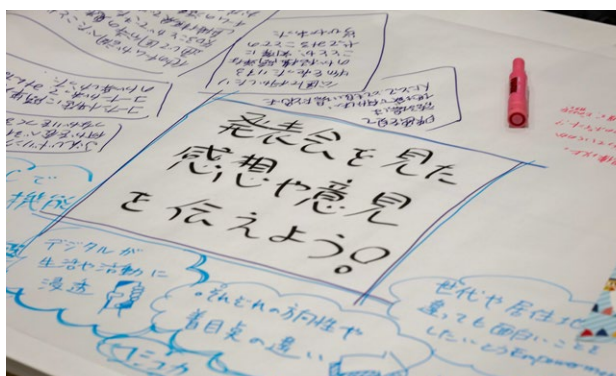
発表会后、公共施設や商業施設等で  
プロジェクトを紹介する展示会も実施

## 7回目 発表を振り返りこれからを宣言する

■振り返り&宣言 今後、国分寺のまちで実践することを宣言する



発表会までチームでの活動が続く為、  
最後の振り返りでは個人としての収穫や、  
今後の抱負を全体に宣言



相互に感想を伝え、  
これからの活動に向けた可能性をひろげます。

